

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりなき緊張感

向日葵はわが街のシンボル



2024 (令和6) 年10月15日 / 第96号

あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう

風早北部地域ふるさと協議会

災害時の救急医療施設候補に 沼南体育館が正式決定・・・しかしながら

柏市は、6月29日のふるさと協議会連合会会合の席上で、災害時の緊急医療目的の臨時施設設置候補先として「沼南体育館」とすることを正式に公表しました。今後、この場所にて医療行為が執り行えるよう、医療関係者等との協議が進められると思われま



す。ただし、現在市が検討している本施策には、大きな障害が目の前に控えていることを住民の皆さんはご承知でしょうか？

先ずは、医療関係者である医師や看護師の当地への災害時の招集につき、市医師会等との具体的協議が行われます。その際に大きな課題となっているのが、この場で使用できる医療機器や薬剤を、災害時に確実に集約し利用できるよう施設や物資の搬入、在庫確保の整備が本当にできるのか？という点です。

医療機器（←導入には相当に多額な予算措置が伴うはず）や薬剤供給に業として深く携わる方の声に耳を傾けますと、災害時にそうしたものを収集すること自体がかなり困難となる模様です。特に、首都圏で広範囲に被災した場合は、こうした機器や備品が柏市まで十分な量で運ばれてくることはほぼ不可能と考えておいた方がよいためです。医療機器は精密機械ですので、凸凹で曲がりくねった道路上の搬送において何らかの故障や障害を受けることが避けられず、仮に機器が施設に到着しても不具合や故障してしまう可能性が高く、運送会社や医療機器の供給者からは、そうした条件下での運送提供には必ず難色を示します。現代の医学治療において、医療機器や薬剤無しでの医療行為はほぼ不可能です。そうした課題を解決しない限り、**沼南体育館を非常時の医療施設にすること自体が「絵に描いた餅」**であり、医師や看護師の皆さんは、こうした条件下の施設で医療行為を求められることには相当難色を示されるはず。市長は今後想定されるこうした課題をどう克服されるのでしょうか？（本意見に対する市の見解や反論をお待ちしたいと思ひます）**私たちは現状においてこう考えます。**

沼南体育館を災害時の医療施設とする 構想は現在の状況下では**かなり困難**です

私たちはその代替策として裏面／次頁記載内容を強く主張します。

災害時に大怪我をしない取組み ～シェイクアウト訓練・家具転倒防止など～

当風早北部地域内には総合病院、すなわち災害時の緊急医療に対応が可能な施設が最寄りにはなく、医師や看護師は災害発生時にこれら総合病院への招集がかかるため、最悪この地域に医療関係者がいなくなる事態に直面します。運悪く災害時に大怪我をすることで、即時に命の危険が迫り、平時で助かっていた命が助からない可能性が確実に高まります。柏市は現状、そうした当地域が抱える危機的な状況を十分把握している一方で、抜本的な改善・対策に手をこまねいています（**沼南体育館を緊急医療施設とする提案も実現性に関しては現状では極めて不透明です**）。

前途多難な救急医療体制の構築に固執することなく、今すぐ発災してからは遅すぎる現状を先ずは直視され、災害時に市民が大きな怪我をしない取組みに対策を傾注するなど柔軟な姿勢を示して欲しいと私たちは考えます。

その具体的取組みとして、「シェイクアウト訓練実施の市民への呼び掛け※」と「家屋内の家具等の転倒防止に関わる施策」を要望します。 ※9/21に市が実施。

大きな家具が倒れても怪我をしない寝室の配置を再度検討しましょう。大災害発生時に怪我をしないことが本当に重要です。特に高齢者は自分で感じているよりずっと身体が動かない場合が多いのです。不幸にして大怪我をすると、この地域に災害発生後は医師や看護師が最悪いなくなる、病院への移動も幹線道路渋滞で難しくなることから、大怪我した方の命の危険が現実味を帯びてきます。基本動作としては、前述のシェイクアウト訓練にも触れている「むやみに動かさず安全な場所に留まって揺れがおさまるのをひたすら待つ」ことが肝要です。避難移動時は、足元が安定するよう、履き慣れた運動靴を常に玄関先に用意しましょう。夜間の震災に備え、灯りの確保も重要です。懐中電灯や携行用LEDライトを避難路付近に配備しておきましょう。家具の転倒防止が最も重要です。仮に家具が倒れても下敷きにならないような寝所の配置は考えていますか？ テレビが転倒して壊れることは、重要な情報源を一つ失うことになります。優先してテレビの固定や転倒防止を行っておきましょう。